新郡市医師会長の紹介

函館市医師会

会長　大原（おおはら）　正範（まさのり）　先生

令和５年３月29日に行われた函館市医師会第182回臨時会員総会で、大原正範先生が新会長に就任されました。前会長の突然の所在不明という、函館市医師会始まって以来の最大の危機の中、異例の独立行政法人国立病院機構函館病院の特別院長が当会会長の大任をお引き受けくださいました。

函館市医師会では、医師会病院、健診検査センター、看護・リハビリテーション学院、夜間急病センターと多くの事業を行っておりますが、少子高齢化、人口減少が進む中、これらの事業をどのように継続し、時に修正しながら、次世代に引き継ぐかが問われています。前会長時代は、医師会各事業の真の問題点が必ずしも理事や会員に共有されていなかったことに対する大原先生の対応は、理事会でも随所に見られ、失われた信頼を回復すべく、山積する課題に真摯に取り組まれる姿は、理事会の雰囲気を大きく変え、多くの会員が新会長の手腕に期待していることを感じます。

先生は昭和60年北海道大学のご卒業で、国立がん研究センター中央病院や道内病院で勤務された後、平成13年から国立函館病院（平成16年に独立行政法人国立病院機構函館病院に改称）に勤務されているバリバリの外科医です。私（産婦人科）も同僚として国立函館病院に勤務していた当時は、手術中に困りごとがあると、外科に応援要請をし、何度も助けていただきました。当時の恩返しではありませんが、私も一理事として、会長の力になれるよう、可能な限りお手伝いさせていただきます。

北海道医報通信員
函館市医師会理事　小葉松洋子

羊蹄医師会

会長　河合（かわい）　貴之（たかゆき）　先生

令和５年５月、前会長の佐藤忠弘先生の後任として、ニセコ医院の河合貴之先生が羊蹄医師会長に就任されましたのでご紹介いたします。

先生は昭和39年にニセコ町でお生まれになりました。

高校から札幌で寮生活をされ、開業医であるご尊父の仕事ぶりを傍らでご覧になる中で、はじめは「無理」と思い医師以外の就職を目指していらしたそうですが、気が付けば医学部を受験されていたそうです。

平成３年杏林大学医学部をご卒業、同年に同大学第一外科教室にご入局され、主に消化器外科を専攻されていたそうです。

「消化器外科の経験だけではへき地診療は無理」とお考えになり、整形外科を経験する目的で、平成11年函館中央病院整形外科にお勤めになられ、翌平成12年にはご尊父の家業を継承する形でニセコ医院の理事長に就任されました。

令和５年にご尊父が逝去されてからは、一人医師医療法人として診療され現在に至ります。

趣味はゴルフでいらっしゃいますが、コロナの影響もあり３年以上行けていないとお聞きしています。小学校から中学校まで野球部に所属、大学からは準硬式野球部に入部し主に外野手として活躍され、東京医科リーグ戦ではベスト４まで進出されたそうです。

座右の銘をお聞きしたところ「御老人に対しては優しく接しなさい」だそうです。ご尊父が常日頃おっしゃっていたそうで、その言葉を大事に日々の診療をなさっています。

河合先生が羊蹄医師会長に就任され４か月ほど経過しますが、早速種々の問題にとりかかっていらっしゃいます。羊蹄山麓７か町村をカバーする羊蹄医師会は規模が大きくないため会員同士は顔の見える関係であり、河合新会長のリーダーシップの下で、今後も地域住民の健康を守るために日夜努めていくであろうと思います。

北海道医報通信員
羊蹄医師会　濱本　　航

上川北部医師会

会長　和泉（いずみ）　裕一（ゆういち）先生

和泉裕一先生、上川北部医師会会長御就任誠におめでとうございます。

和泉先生は1980年旭川医科大学卒業、同大学外科学第一講座入局、1990年に米国Seattle市のThe Hope Heart Institute/Providence Medical Centerに御留学、1993年に名寄市立総合病院・心臓血管外科医長、2003年名寄市立総合病院副院長、2013年名寄市立総合病院院長、2018年名寄市病院事業管理者という経歴を歩まれ、まさに上川北部の医療のために捧げられた医師人生と言ったら大げさでしょうか？　上川北部医師会には1993年に入会、2013年に副会長となっておられます。

当院（士別市立病院）は私が院長に就任したときに、かつての病院運営の仕方から“慢性期診療中心の医療”に変えてきて経営状態が改善してきました。その時に当院で受けられなくなった急性期の患者を約20km北にある名寄市立総合病院で受けていただくことが絶対に必要でした。名寄市立総合病院はその頃、“急性期診療中心の医療”で生きていくという方針を決められていたので、パズルがうまく合わさったような感じがありました。和泉先生と何度も協議を繰り返し、上川北部地域の医療の住み分けを進めてきました。

和泉先生も私も上川北部医師会の副会長でした。かつては仲が良いとは言えない状況であった両院が、院長どうしの連携が深まる中で、劇的に関係が変わっていきました。今では重症の救急患者は名寄市立総合病院へ送ることが一般化され、当院に循環器専門外来を名寄市立総合病院から送っていただくなど、両院の連携は非常に強くなっています。

そのような経過で、私には、個人的には和泉先生と組んで上川北部医療圏の医療を支えてきたという自負があります。しかしそれは、“組んで”と言ったらとても傲慢で、実際には和泉先生を頼って世話にばかりなってきた気がします。脳外科患者の救急圏域を超えた直送システム、大腿骨頚部骨折の広域連携パスの作成、佐古和廣先生を理事長とする地域医療連携推進法人・上川北部医療連携推進機構の設立、などなど数えきれないくらいあります。

そんな和泉先生が、今回、上川北部医師会の会長となられ、私は本当に安心しております。

偉大な兄貴分のような和泉先生が会長となり、私は副会長として全面的にバックアップしていくつもりです。

和泉先生、この度は本当におめでとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

上川北部医師会副会長　長島　　仁